

胃 X 線検査

2 人に 1 人がかかる病気だといわれ、今や国民病とみなされているがんですが、その中でも「胃がん」は死亡数・罹患数の多い疾患です。

初期のうちに発見して完全に悪い細胞を取り除いてしまうことが何よりも重要です。

健康診断などで実施される「胃 X 線検査」は、死亡率減少効果を示す相応な証拠があることから、胃がんの対策型検診として国が推奨している検査方法です。

胃・食道・十二指腸のがん疾患のほか、胃潰瘍やポリープなどを早期に発見することができます。

昨今は、それに加えてピロリ菌感染によって主に生じる萎縮性胃炎の評価にも役立っています。

ピロリ菌の感染などが原因で慢性胃炎になり、それが長期化すると、胃の粘膜が萎縮して「萎縮性胃炎」という状態になります。萎縮性胃炎は、ピロリ菌関連病変と理解される以前より、胃がん発生の母地と考えられており、胃がん予防のためには早期発見・早期治療が重要となります。萎縮性胃炎は、胃 X 線検査で、胃の背景粘膜を評価することによって診断することができます。

萎縮性胃炎と診断されたら、消化器内科を受診してください。

ピロリ菌感染症は 2013 年 2 月から除菌治療が健康保険の適用になりました。

これは日本人の胃がんの 9 割以上がピロリ菌感染症で引き起こされているため、予防対策として胃炎の段階から治療を開始すると効果的だという考えによるものです。

除菌治療の保険適用の条件は、医師による慢性胃炎等の診断のもと、胃内視鏡検査(胃カメラ)やその他の検査を受け、ピロリ菌感染の有無を調べます。

その結果、ピロリ菌による慢性胃炎が確認されれば除菌治療を行います。

検査方法

顆粒の発泡剤を少量の水で飲みます。

胃が膨らみ、ゲップが出そうになりますが、胃の中のひだを伸ばして病変を発見しやすくするためです。検査中はこらえてください。

指示に従ってバリウムを飲みます。

撮影台を倒したり、体を右へ左へ回転させるなどの指示が出されます。

バリウムを胃壁全体に薄く附着させるためです。

様々な角度で撮影が行われます。

検査 10～15 分で終わります。

検査後は、すぐに下剤を飲み、水・お茶など水分をたくさん摂っていただきます。

バリウムが固まる前に体外に排出させるためです。

便秘傾向の方には予備の下剤を多めにお渡しします。

検査を受けられない方

- ・ 妊娠中、妊娠の可能性のある方

◆ 高い胃がんの罹患数・死亡数

医療技術の進歩により、胃がんでの死者は減少していますが、死亡数に着目すると、肺がん、大腸がんに次いで第 3 位(2017 年データ)、罹患数では、大腸に次いで第 2 位(2014 年データ)となっています。

まだまだ罹患数・死亡数ともに高いのが現状です。

早期発見のため定期的に胃の検査を受けられることをおすすめします。



医親会

医療法人財団医親会

OBP クリニック

<https://www.obp-clinic.jp>

(代表) 06-6941-8687

(外来受付) 06-6941-8693

(健診) 06-6941-8686